

「和き・合い・愛チャレンジキャンプ」第3回 事業報告

- 1 事業名 「和き・合い・愛チャレンジキャンプ」第3回
- 2 日時 令和4年9月3日(土)～4日(日)
- 3 趣 旨 知的障がいのある生徒を対象に、自然体験活動や社会体験活動のプログラムを通して、何事にも主体的に取り組む力や他者とふれあう力を育み、自立心や社会性を身につける力を養います。
- 4 対 象 特別支援学校の高等部に在籍する知的障がいのある児童・生徒
- 5 研修内容

9月3日(土)	13:15	13:30	14:00	17:50	19:30	20:00	21:30
	受付 (保護者との情報交換)	はじまりの会	職場見学 (就労体験)	夕食づくり	入浴	リフレッシュ タイム	就寝

9月4日(日)	6:30	7:30	9:00	11:00	13:00
	起床	朝食づくり	カプラ積み木 de グループワーク	昼食づくり	終わりの言葉

6 当日の様子

集まったときから、元気にぎやかな高校生の3人。これまでも参加したことがあるなど、当センターにも慣れている様子でした。ボランティアの方とも久しぶりに会えたという参加者もいてうれしそうにしていました。これからの活動が楽しみになる出会いの場になりました。



はじまりの会が終わると、最初は、『就労体験』にエフコープさんの敷地内にあるアップルファームへ行きました。そこでは、しいたけ栽培がおこなわれていました。栽培から収穫、袋詰め、出荷等の作業を従業員の方がされていました。今回は、収穫と袋詰めの作業をさせていただきました。収穫できるしいたけはどれかを見極めながら作業をする難しさを感じることができました。しいたけは、温度や湿度の管理が重要な植物だそうです。また、しいたけの菌床は振動でも生育などに影響が出るため、工場に運んでくるときにも気を付けているようです。栽培するときには注意することや働いている様子のお話を聞くことができました。



根元から切るように気を付けました。



完成品をよく見て、自分で作りました。

社会教育総合センターに戻ってからは、リフレッシュタイムをとりました。仕事から戻ってからの過ごし方を自分で考えてできるようにと、活動に取り入れました。ゆっくりとした時間を過ごしました。

タベのつどいは、その日宿泊している他の団体へ「和き・合い・愛チャレンジキャンプ」の活動について代表となった子が、話をしてくれました。緊張しながらも明るく元気に説明することができました。



カプラ積み木をさわってみました。



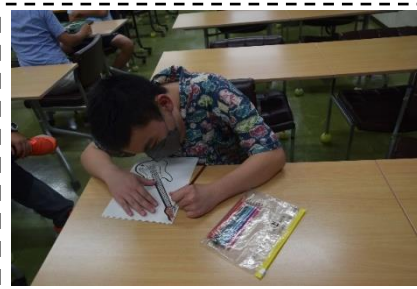
見えないルートを協力して探しました。

働き始めて大切になるものの一つとして、食事が挙げられます。今回のチャレンジキャンプでは、夕食、朝食、昼食の三食を自分たちで作りました。夕食のメニューは、“簡単リゾット”と“ポトフ”です。鶏肉や野菜を切る料理です。ボランティアの方とも協力して手際よく作り、楽しい食事時間を過ごしました。

食事のあとは、リフレッシュタイムの続きをしました。ボランティアの方とオセロを楽しんだり、塗り絵をしてみたり、思い思いに時間を過ごしました。



小さめに切って火が通りやすくなるように工夫しました。どんどん手際よくなりました。



自分の好きなことをしながら時間を過ごしました。

～2日目～

参加者は元気に2日目をスタートしました。朝食づくりでは、スクランブルエッグを作ったり、ウィンナーを焼いたりして、ごはんと一緒にいただきました。身支度や寝具の片付けなど、自分のことは自分でやっている姿を見ると感心しました。

午前中は、カプラ積み木を使って、グループワークを行いました。まずは、自分の家を作ります。家の形、大きさ、組み方など人それぞれで、いろいろな家が建ちました。そして、一人ひとりが建てた家を道でつなぎ、町を作りました。みんなで、町にあるといいものを考えて、分担して作っていきました。みなさん夢中になって活動に取り組んでいて、自分たちだけの素敵な町をつくることができました。



自分の家を思い思いに作りました。



道路も付け加えて自分たちの町をつくりました。

最後は、ホットサンドを作りました。具材を入れてからは、焦げないように時間を計りながら作りました。フライパンを使って簡単に作ることができるので、また作りたいと言ってくれる参加者の方もいました。今回のキャンプでは、三食自分たちで作りましたが、準備も片付けも自分たちで頑張った参加者のみなさんでした。

○参加者の声（保護者アンケートより）

- ・頑張ったことは「サンドイッチづくり」と言いました。料理、椎茸のお仕事、「どれも楽しかったー」と言っています。また行きたい、なんでもします！と言っています。
- ・すべてが楽しかったようですが、特に毎食の準備は頑張ったようです。家に帰ってから家族に作りたくなったらしく、一人で食事の準備をしてくれました。

○全体をとおして

今回の「和き・合い・愛チャレンジキャンプ」では、働くことと生活することを活動の中心として進めてきました。働くことでは、実際に働いていらっしゃる場所や作業工程を体験させていただくことができました。働いている方々の工夫を一生懸命見たり聞いたりすることができました。食事では、三食とも自分たちで準備し、調理、食事、片づけの流れを繰り返して取り組むことで、社会に出たときに生かすことができる経験になったと思います。感想からも、活動後にご家庭で食事を作った参加者の方もいて、今回のチャレンジキャンプがこれからの様々な場面で生かされていくとうれしいです。